WLCFL-11

取扱説明書

本書の「安全にお使いいただくために　必ずお守りください」(P.2) を必ずお読みになり、正しく取り付け・操作を行ってください。

PN J613-M7387-00 Rev.A

はじめに

このたびは、「corega WLCFL-11」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本書は、本製品を正しくご利用いただくための手引きです。必要なときにいつでも参照していただけるように、大切に保管してください。

作業の流れ

本書では、本製品を使って無線LANに接続できるようになるまでの作業をPARTに分けて説明しています。各PART での作業は次のとおりです。順番に読んで、作業を進めてください。

PART1
まず準備が必要

①添付品の確認
②使用環境の確認
本製品を取り付けられるパソコンの条件や対応OS、通信相手の機器の設定などを確認してください。
③各部の名称と機能の確認

Windows CE マシンに本製品を取り付ける場合は、PART2～3へ
パソコンに本製品を取り付ける場合は、PART4～5へ進んでください。

PART2
本製品をWindows CE
マシンに取り付けよう

PART4
本製品をパソコンに
取り付けよう

①ソフトウェアのインストール
添付の CD-ROM からユーティリティーをインストールします。
②本製品の取り付け
本製品を取り付けます。
本製品を取り付けると、自動的にドライバーのインストールが始まります。使用する OS に対応した箇所を読んでください。

PART3
Windows CEマシンの
無線LAN設定をしよう

PART5
パソコンの無線 LAN
設定をしよう

①パソコンのネットワーク設定の確認
②無線 LAN の設定
添付のユーティリティーで設定します。
③接続状態の確認
④セキュリティーの設定
必要に応じて、通信内容の暗号化の設定をします。

PART6 以降は、必要に応じて読んでください。

PART6
ユーティリティーを見
てみよう

本製品は、添付のユーティリティーによって、詳細な設定ができます。このPART では、ユーティリティーで設定できる項目について説明しています。

付　録

製品仕様、工場出荷時の設定などに関する説明があります。

安全にお使いいただくために 必ずお守りください

本書では、製品を安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

注意事項を守っていただけない場合、どの程度の影響があるかを表しています。

⚠警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。

	感電の可能性が想定されることを示します。		発煙または発火の可能性が想定されることを示します。
	けがを負う可能性が想定されることを示します。		高温による傷害の可能性が想定されることを示します。

障害や事故の発生を防止するための、その他の注意事項は次のマークで表しています。

	電源プラグを抜く 電源ケーブルのプラグを抜くように指示するものです。

⚠警告

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。
火災や感電、けがの原因となります。

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。

異物は入れない　水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。

高温注意

本製品の使用直後は高温になっています。不用意に触れると、やけどの恐れがあります。

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

・直射日光の当たる場所
・暖房器具の近くなどの高温になる場所
・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度80%以下の環境でご使用ください）
・振動の激しい場所
・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
・腐食性ガスの発生する場所

静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。

取り付け・取り外しのときの注意

Windows CE マシンやパソコンに本製品を取り付ける作業は、必ず本取扱説明書、およびご使用のパソコンの取扱説明書を参照の上、正しく行ってください。

長期保管時は袋に入れて

本製品を長期間ご使用にならない場合は、Windows CEマシンやパソコンから取り外して必ず添付の袋（静電防止）に入れて保管してください。

取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないでください。

お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、堅く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

お手入れには次のものは使わないでください

石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください）。

電波に関する注意

本製品を下記のような状況でご使用になることはおやめください。
また設置の前に、「安全にお使いいただくために」を必ずお読みください。

・ 心臓ペースメーカーをご使用の近くで、本製品をご使用にならないでください。心臓ペースメーカーに電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
・ 医療機器の近くで、本製品をご使用にならないでください。医療機器に電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
・ 電子レンジの近くで、本製品をご使用にならないでください。電子レンジによって、本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、工場の製造ラインで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに本製品の周波数を変更して、混信を回避してください。
3 その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本書の読み方

●記号について

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

注意!	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
メモ	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

本製品	corega WLCFL-11 のことです。
「　」－「　」－「　」	「　」で囲まれた項目の順番に選択することを示します。
[　]	[　] で囲んである文字は、画面上のボタンを表します。
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional oprating system日本語版 Service Pack 1およびMicrosoft® Windows® XP Home Edition oprating system 日本語版 Service Pack 1のことです。
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional oprating system 日本語版のことです。
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition oprating system 日本語版のことです。
Windows CE	Microsoft® Windows® CE Version 3.0 のことです。
Handheld PC 2000、ハンドヘルドPC	Microsoft® Windows® for Handheld PC 2000 のことです。
Pocket PC 2002/2000、ポケットPC	Microsoft® Pocket PC 2002 Software 日本語版とMicrosoft® Pocket PC 2000 Software 日本語版を総称しています。
Windows CE マシン	ハンドヘルドPCとポケットPCを総称しています。
Microsoft ActiveSync、ActiveSync	Microsoft® ActiveSync® 3.1 for Microsoft のことです。

※複数のOSを「Windows XP/2000」のように併記する場合があります。

●イラスト、画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

目次

PART4　本製品をパソコンに取り付けよう …38

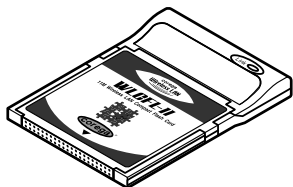
PART5　パソコンの無線 LAN 設定をしよう … 46

PART6　ユーティリティーを見てみよう … 58

付録 ･･･ 70

PART1　まず準備が必要

添付品の内容を確認しよう

本製品のパッケージには、次のものが同梱されています（下記以外に添付紙が同梱されている場合があります）。お買い上げ商品についてご確認いただき、万一不足するものがございましたら、お手数ですがご購入元までご連絡ください。

□ corega WLCFL-11 本体

□ユーティリティーディスク
（CD-ROM　1 枚）

corega

WLCFL-11

取扱説明書

PART1 まず準備が必要 1
PART2 本製品を Windows CE マシンに取り付けよう 2
PART3 Windows CE マシンの無線 LAN 設定をしよう 3
PART4 本製品をパソコンに取り付けよう 4
PART5 パソコンの無線 LAN 設定をしよう 5
PART6 ユーティリティーを見てみよう 6
付録 付録

本書の「安全にお使いいただくために　必ずお守りください」(P.2) を必ずお読みになり、正しく取り付け・操作を行ってください。

PN J613-M7387-00 Rev.A

□『取扱説明書』（本書）

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1　この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2　万が一この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、弊社サポートセンターにご連絡頂き、混信回避のための処置等についてご相談下さい。
3　その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことがおきたときは弊社サポートセンター（マニュアル・取扱説明書等に記載）へお問い合わせ下さい。

PN J705-N7033-00 Rev.B

□電波干渉注意ラベル（1 枚）

□製品保証書

使用環境を確認しよう

本製品を接続する前に、以下の項目を確認し、☑のようにチェックを付けてください。

注意！ 企業などで本製品を利用する場合は、ネットワーク管理者にご相談のうえ、必要な機器の準備、設定を行ってください。

□ チェック

パソコンの環境は問題ないですか？

本製品は、次の機器、オペレーティングシステム（OS）に対応しています。本製品を取り付ける機器が以下の条件を満たしているか、確認してください。

Windows CE マシンで使用する場合

対応 Windows CE マシン（ハンドヘルド PC、またはポケット PC）	本製品は下記の条件を満たす環境が必要です。 ・PC カード（Type Ⅱ）スロット、またはコンパクトフラッシュ（Type Ⅰ または、Type Ⅱ）スロットを搭載している ・Microsoft ActiveSyncを使いWindows CE マシンとパソコンを接続して、データの送受信ができる
対応オペレーティングシステム	本製品および添付のユーティリティーは、次のオペレーティングシステムに対応しています。 Windows CE 3.0（Pocket PC 2000/2002、Handheld PC 2000）

パソコンで使用する場合

対応パソコン	本製品は下記の条件を満たすパソコンに対応しています。 ・PCカード(Type Ⅱ)スロットを搭載している ・CD-ROM ドライブが装備されている ・PC/AT互換機、またはPC98-NX(NEC社製)
対応オペレーティングシステム	本製品および添付のユーティリティーは、次のオペレーティングシステムに対応しています。 ・Windows Me ・Windows 2000 ・Windows XP Professional(32Bit)/ Home Edition

注意!

・PC カードスロットやパソコンで使用する場合は、必ず別売の WLCFL-11 専用コンパクトフラッシュアダプター(corega CF-ADP2)をご利用ください。

・本製品の専用アダプター(corega CF-ADP2)以外のコンパクトフラッシュアダプターを使用すると、故障の原因になる恐れがあります。

・本製品を含め、1台のパソコンでLANアダプターを2つ使用した場合の動作保証はしておりません。

・本製品の使用中は、パソコンのレジューム、サスペンド、省電力機能を使用しないでください。これらの機能を無効にする方法については、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧いただくか、各パソコンメーカーにお問い合わせください。

各部の名称と機能を覚えよう

●本体表面

Link LED（緑）

通信相手の機器との接続状態を表します。

- 点灯：通信相手の機器とリンクが確立している状態です。
- 点滅：通信相手の機器とデータ通信中です。
- 消灯：通信相手の機器とリンクが確立されていない状態です。

●本体裏面

① シリアル番号ラベル

本製品のシリアル番号とリビジョンが記載されています。シリアル番号とリビジョンは、ユーザーサポートへの問い合わせの際に必要となります。

② MAC アドレスラベル

本製品のMAC アドレスが記載されています。

③ 警告ラベル

本製品を安全にご使用いただくための重要な情報が記載されておりますので、必ずお読みください。

メモ　上の図で 2.4 DS 4 は次の内容を意味しています。

使用周波数帯域	2.4GHz 帯
変調方式	DS-SS 方式
想定干渉距離	40m 以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内局」あるいは「特小局」帯域を回避可能

PART2　本製品を Windows CE マシンに取り付けよう

ソフトウェアをインストールする前に

● Windows CE マシンとパソコンを接続する

ソフトウェアをインストールする前にMicrosoft ActiveSync を使って、Windows CE マシンとパソコンを接続し、正常に同期していることを確認してください。

メモ　Microsoft ActiveSync の使用方法および、Windows CE マシンとパソコンの接続方法について詳しくは、Windows CEマシンに添付の取扱説明書を参照してください。

●パソコンのドライブの確認

本書ではご使用のパソコンのドライブ構成を次のように想定して説明しています。ドライブ名が異なる場合は、実際の環境に合わせて読み替えてください。

起動ドライブ（ハードディスク）	C ドライブ（C:）
CD-ROM ドライブ	E ドライブ（E:）

注意!
- ・Windows CEマシンにソフトウェアをインストールする場合、Microsoft Active Sync で接続されたパソコンからインストールしてください。
- ・ソフトウェアをインストールする前に本製品をWindows CEマシンに取り付けないでください。

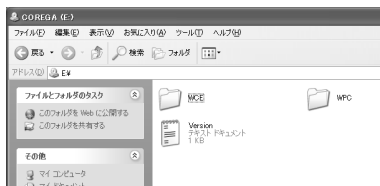
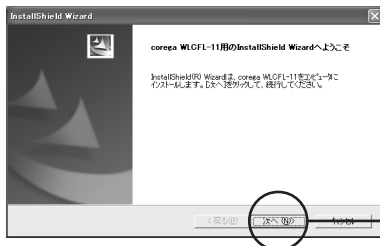
ソフトウェアをインストールする

本製品を使用するためのソフトウェア（ドライバー、ユーティリティー）を、パソコンにインストールする方法を説明します。ここでは、Windows XPの画面を使用して説明しています。基本的な操作方法は、Windows XP/2000/Me で共通です。差異のある操作等に関しては、該当の記載内容を参照してください。

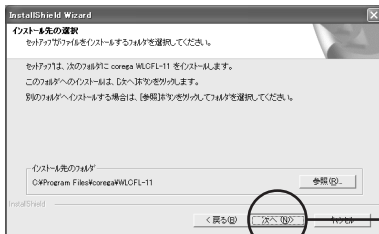
1 ユーティリティーディスクをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

2 Windows XPの場合は、[スタート]－「マイコンピュータ」をクリックします。Windows XP以外は、デスクトップにある「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。

3 をダブルクリックします。

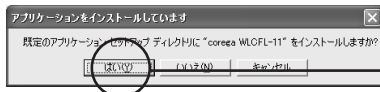
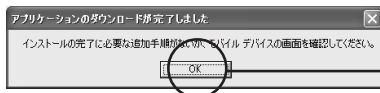
4 「WCE」フォルダをダブルクリックします。

5 をダブルクリックします。

6 「InstallShield Wizard」が起動するので、[次へ]をクリックします。

「インストール先の選択」が表示されます。

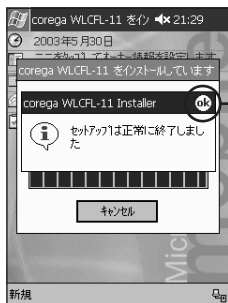
7 [次へ]をクリックします。

「ファイルコピーの開始」が表示されます。

メモ 「インストール先の選択」で、インストール先のフォルダを変更したい場合は、[参照]をクリックし、ソフトウェアをインストールするフォルダを選択してください。通常は、変更する必要はありません。

8 [次へ]をクリックします。

「セットアップステータス」と「アプリケーションの追加と削除」が表示され、「デバイスのデータを取得中」画面でデバイスのデータを取得します。デバイスのデータ取得が終了すると「アプリケーションをインストールしています」と表示されます。

9 [はい]をクリックします。

10 [OK]をクリックします。

11 Windows CEマシン上でセットアップが正常に終了したことを確認し、[OK]をタップします。

＜ポケットPCの場合＞

＜ハンドヘルドPCの場合＞

12 「InstallShield Wizardの完了」画面で[完了]をクリックします。

これでWindows CEマシンへのインストールは完了です。

本製品を Windows CE マシンに取り付ける

●本製品を取り付けるときの注意

- 本製品を取り付ける前に、必ずソフトウェアをインストールしてください。インストール方法は、「ソフトウェアをインストールする」(P.16) を参照してください。
- コンパクトフラッシュスロットまたは PC カードスロットの位置は、お使いの Windows CE マシンによって異なります。
- コンパクトフラッシュ対応機器やPCカード対応機器の取り付け方について詳しくは、ご使用の Windows CE マシンの取扱説明書をご覧ください。
- PCカードスロットで本製品を使用する場合は、必ず別売のWLCFL-11専用コンパクトフラッシュアダプター（corega CF-ADP2）をご使用ください。

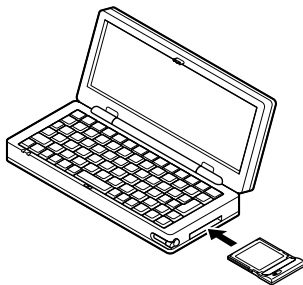
2

■ 本製品を取り付ける

ソフトウェアをインストール後に本製品をはじめてWindows CEマシンに取り付けると、TCP/IP 設定用の画面が表示されます。2 回目以降は、表示されなくなります。TCP/IPの設定については、「PART3 Windows CE マシンの無線LAN設定をしよう」（P.24）を参照してください。

＜ハンドヘルド PC の場合＞

1 Windows CEマシンの電源を入れます。

2 差し込む向きに注意して、本製品をWindows CEマシンに取り付けます。

TCP/IP 設定用の画面が表示されます。

「PART3 Windows CE マシンの無線 LAN 設定をしよう」（P.24）に進んでください。

<ポケットPCの場合>

1 Windows CEマシンの電源をONにします。

2 差し込む向きに注意して、本製品をWindows CEマシンに取り付けます。

TCP/IP設定用の画面が表示されます。

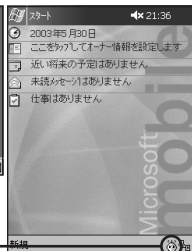
「PART3 Windows CEマシンの無線LAN設定をしよう」（P.24）に進んでください。

本製品が正しく動作しているか確認する

本製品のインストールが正常に行われていることを確認します。

■無線アイコンの表示を確認する

インストール完了後、本製品が正常に認識されると、タスクトレイにまたはが表示されます。

＜ハンドヘルドPCの場合＞　　＜ポケットPCの場合＞

無線アイコンの表示は、通信相手の機器との通信状態によって変化します。

は、通信相手の機器と通信できる状態です。

は、通信相手の機器と通信できない状態です。

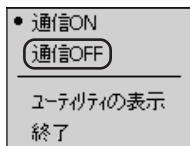
本製品を取り外す

本製品を取り外す場合は、以下の手順で行ってください。

1 タスクトレイに表示される をタップします。

＜ハンドヘルドPCの場合＞

ポップアップメニューが表示されます。

2 「通信OFF」をタップします。

3 本製品をWindows CEマシンから取り外します。

本製品のソフトウェアをアンインストールする

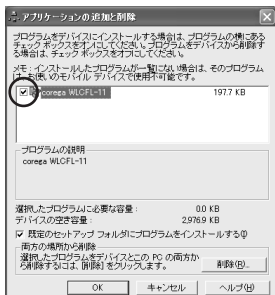
Windows CE マシンから本製品のソフトウェアをアンインストールする場合、Windows CE とパソコンを接続し、必ずパソコンからアンインストールしてください。Windows CE で直接、アンインストールを行わないでください。

1 Windows CEマシンとパソコンを接続し、Microsoft ActiveSyncで同期させます。

2 パソコンに表示されるMicrosoft ActiveSyncの画面で「ツール」-「アプリケーションの追加と削除」をクリックしてください。

2

パソコンに「アプリケーションの追加と削除」の画面が表示されます。

3 「アプリケーションの追加と削除」の画面で「corega WLCFL-11」の☑をクリックして、☐にします。

4 [OK]をクリックします。

「アプリケーションの追加と削除」の画面から「corega WLCFL-11」が消えます。

5 Windows CEマシンの[スタート]-「プログラム」をタップしてください。

6 Windows CEマシンの「プログラム」フォルダから「corega WLCFL-11」が消えれば、アンインストール終了です。[×]をタップして「プログラム」フォルダを閉じてください。

7 パソコンに表示されている「アプリケーションの追加と削除」の[×]をクリックして終了してください。

PART3　Windows CEマシンの無線LAN設定をしよう

Windows CE のネットワーク設定を確認する

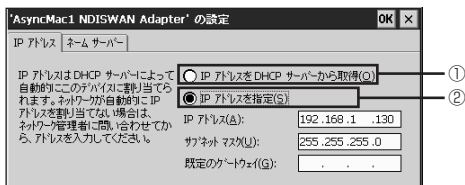
無線LANを使用してインターネットへの接続やデータの送受信をするためのネットワークの設定を行います。

■インターネットに接続するとき（TCP/IP の設定をする）

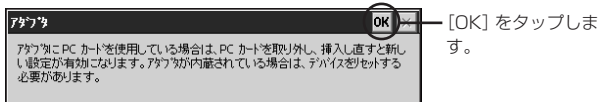
本製品を取り付けたWindows CEマシンでインターネットに接続するには、TCP/IPの設定が必要です。本製品のソフトウェアをインストール後、はじめて本製品を取り付けると、自動的に「TCP/IP の設定」画面が表示されます。

メモ　「TCP/IPの設定」画面が表示されない場合は、以下の手順で表示できます。
①[スタート]−「設定」−「コントロールパネル」をタップします。
②「ネットワーク」アイコンをダブルタップします。
③本製品のネットワークドライバーを選び、[プロパティ]をタップします。

●ハンドヘルドPC の場合

1　「IPアドレス」タブを選び、IPアドレスの設定を行います。

①DHCPサーバー機能を持ったルーターなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IPアドレスをDHCPサーバーから取得する」を選択します。
②DHCPサーバー機能を使用しない場合や、特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、「IPアドレスを指定」を選択して、使用するIPアドレスとサブネットマスクを入力してください。

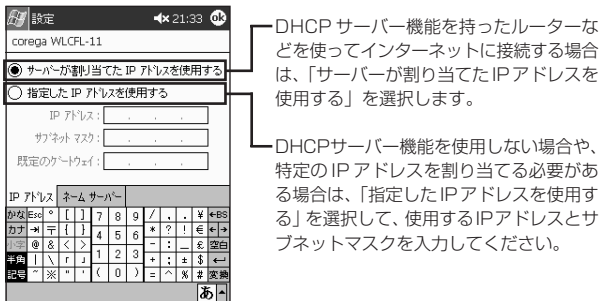
2　[OK]をタップします。

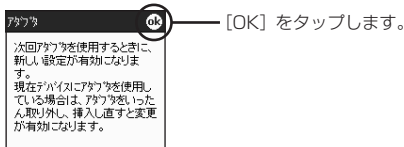
3　次のような画面が表示されます。[OK]をタップしてください。

4　ネットワーク画面で[OK]をタップします。

5　[×]をタップして終了します。

6　本製品をいったん取り外し、再度取り付けます。

●ポケットPCの場合

1　「IPアドレス」タブを選び、IPアドレスの設定を行います。

2　[OK]をタップします。

3　次のような画面が表示されます。[OK]をタップしてください。

4　ネットワークの画面で[OK]をタップします。

5　[×]をタップして終了します。

6　本製品をいったん取り外し､再度取り付けます。

無線LANの設定をする

本製品のユーティリティーを使用し、本製品で無線通信をするための設定を行います。設定終了後に、通信可能か確認します。

●ユーティリティーを表示する

メモ　設定を行うときは、通信相手の機器（アクセスポイントなど）に確実に電波が届く場所に本製品を取り付けたWindows CEマシンを移動してください。通信相手の機器との間に障害物などがあり電波が届かない場所で設定を行うと、通信相手の機器が正しく認識されないことがあります。

1　通信相手の機器(アクセスポイントなど)を起動しておきます。

2　タスクトレイのまたはをダブルタップします。

＜ハンドヘルドPCの場合＞

＜ポケットPCの場合＞

｢corega WLCFL-11 Utility｣の｢接続情報｣が表示されます。

■通信相手の機器を自動で検索する

「接続情報」で通信相手の機器を自動的に検索、設定を行います。

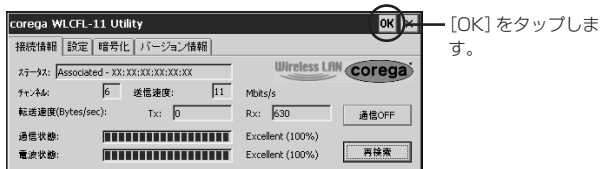
1 通信相手の機器と接続された状態になり、通信相手の機器との通信状況が表示されます。しばらくすると、検索された通信相手の機器のMACアドレスが表示されます。

＜ハンドヘルドPCの場合＞

注意! 通信相手の機器の暗号化(WEPキー)設定が有効になっていると、[再検索]をタップしても接続できません。通信相手と同じ暗号化(WEPキー)を設定してください。

メモ 通信相手の機器側でESSIDを検出できないように設定されている場合は、自動的に検索できません。次の「通信相手の機器を自動で検索できない場合」の手順で通信相手と同じESSIDを設定してください。

2 ［OK］をタップして、「corega WLCFL-11 Utility」を終了します。

＜ハンドヘルドPCの場合＞

＜ポケットPCの場合＞

［OK］をタップします。

■通信相手の機器を自動で検索できない場合

通信相手の機器を自動で検索できない場合は、利用する通信モードに合わせて手動で設定を行います。

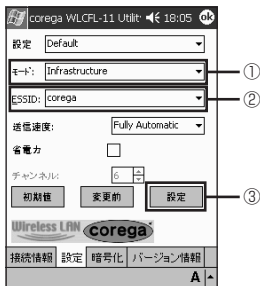
・インフラストラクチャーモードの場合は、「インフラストラクチャーモードの場合」（本ページ）に進みます。
・802.11 アドホックモードの場合は、「802.11 アドホックモードの場合」（P.31）に進みます。

●インフラストラクチャーモードの場合

アクセスポイントを使用して無線LAN に接続するときは、次のように設定します。

1 「設定」タブをクリックして、表示される画面で次のように設定します。

<ハンドヘルドPCの場合>

<ポケットPCの場合>

①「Infrastructure」を選択します。
②通信相手の機器と同じ ESSID を入力します。
③［設定］をタップします。

注意! ・「ESSID」欄には、接続したいアクセスポイントに設定されているESSIDと同じ文字列を入力する必要があります。アクセスポイント側に設定されているESSIDの調べ方については、アクセスポイントに添付の取扱説明書をご覧ください。

・ESSIDには、32文字以内の半角英数字および記号を使用できます。使用できる記号は、次の通りです。
! " # ＄ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [￥] ^ _ { ¦ } .

メモ 本製品の工場出荷時のESSIDは「corega」に設定されています。

2 [OK]をタップして、「corega WLCFL-11 Utility」を閉じ、設定を終了します。これで無線LANアクセスポイントを通じて、インターネットに接続できるようになりました。

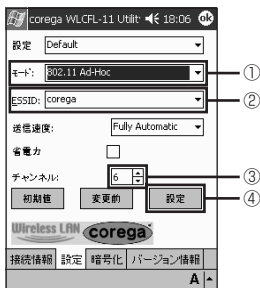
次に「接続状態を確認しよう」（P.33）に進んでください。

● 802.11 アドホックモードの場合

802.11アドホックモード対応の無線LAN機器をご使用の場合に選択できます。選択する前にお使いの無線LAN 機器の対応状況を確認してください。
802.11 アドホックモードでは、ESSID や認証チェックが行われます。

1 「設定」タブをタップして、表示される画面で次のように設定します。

＜ハンドヘルドPCの場合＞

＜ポケットPCの場合＞

①「802.11 Ad-Hoc」を選択します。
②通信相手の機器と同じＥＳＳＩＤ（SSID）を入力します。
③通信相手の機器と同じチャンネルにします。
④［設定］をタップします。

注意! ・「ESSID」欄には、接続したいアクセスポイントに設定されているESSIDと同じ文字列を入力する必要があります。アクセスポイント側に設定されているESSIDの調べ方については、アクセスポイントに添付の取扱説明書をご覧ください。
・ESSIDには、32文字以内の半角英数字および記号を使用できます。使用できる記号は、次の通りです。
! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } .

メモ 本製品の工場出荷時のESSIDは「corega」に設定されています。

2 ［OK］をタップして、「corega WLCFL-11 Utility」を閉じ、設定を終了します。
これで無線LAN機能のある機器同士で通信ができるようになりました。

●無線 LAN の設定を確認しよう

相手の無線LAN機器とファイルをやりとりできるか、またはインターネットに接続できる環境がある場合は、無線LANを使ってインターネットに接続できるか確認してください。うまくいかない場合は、「付録」の「トラブル解決のステップ」（P.71）をご覧ください。

次に「接続状態を確認しよう」（P.33）に進んでください。

接続状態を確認しよう

ユーティリティーを使って無線 LAN の通信状態を確認します。

1　タスクトレイの をダブルタップします。
「corega WLCFL-11 Utility」が表示されます。

2　「接続情報」タブをタップします。
現在の無線LAN通信の状態が表示されます。

＜ハンドヘルドPCの場合＞

ここで電波状態と通信状態を確認できます。

＜ポケットPCの場合＞

ここで電波状態と通信状態を確認できます。

●通信状態が不安定な場合

通信状態が不安定な場合は、［再検索］をクリックしてください。

次に「セキュリティーの設定をしよう」（P.34）に進んでください。

セキュリティーの設定をしよう

無線LAN ではデータの通信に電波を利用しているため、電波が届く範囲であれば、通信内容を傍受されたり、不正侵入されたりする恐れがあります。本製品では、これらの対策として次のようなセキュリティー機能を用意しています。

■通信相手を識別する

ESSID（Extended Service Set IDentifier）

無線LAN に接続する機器を識別する名前です。SSID と呼ばれることもあります。同じESSIDを持つ無線LAN機器同士でしか通信できないため、独自のESSIDを設定することにより、外部から不正侵入される危険が減少します。本製品の工場出荷時のESSIDは「corega」に設定されています。セキュリティーのためにESSIDを変更することをおすすめします。

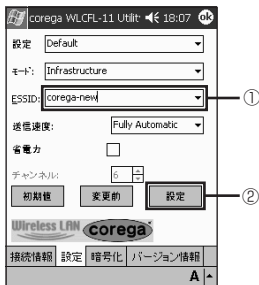
● ESSID の設定

- 「ESSID」欄には、接続したいアクセスポイントに設定されているESSID と同じ文字列を入力する必要があります。アクセスポイント側に設定されているESSIDの調べ方については、アクセスポイントに添付の取扱説明書をご覧ください。
- ESSID には、32 文字以内の半角英数文字および記号を使用できます。使用できる記号は、次の通りです。
  ! " # $ % & ' （ ） * + , - . / : ; < = > ? @ [￥] ^ _ { ¦

1 タスクトレイのをダブルタップします。
「corega WLCFL-11 Utility」が表示されます。

2 「設定」タブをタップします。

<ハンドヘルドPCの場合>

<ポケットPCの場合>

①通信相手の機器と同じ ESSID を入力します。
　ここでは、「corega-new」と入力しています。
②［設定］をタップします。

3 「OK」をタップします。
ESSIDの設定が終了しました。

■通信内容を暗号化する

WEP（Wired Equivalent Privacy）

WEPは通信内容を暗号化して通信相手の機器と送受信します。通信内容を暗号化すると、仮に通信データを傍受された場合でも、通信内容の復元を容易に行うことができなくなります。WEP機能を有効にして通信データを暗号化することをお勧めします。ただし、通信相手の機器もWEP機能を持っていないと使えません。
本製品は、次の2種類のWEPに対応しています。

「64Bit WEP」：16進数で10桁の暗号キーを利用可能
「128Bit WEP」：16進数で26桁の暗号キーを利用可能

「128BitWEP」の方がより安全です。また、定期的に暗号キーを変更することで、より安全性が高まります。

メモ
・16進数：0〜9、a〜fまでの英数字であらわします。
・「128bit WEP」を使用する場合は、メモリの消費量が増加するため、無線ネットワークのパフォーマンスに多少影響があります。
・アクセスポイントを使って通信を行うときは、アクセスポイント側にもWEP暗号化の設定が必要になります。設定方法は、アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。

● WEP（Wired Equivalent Privacy）の設定

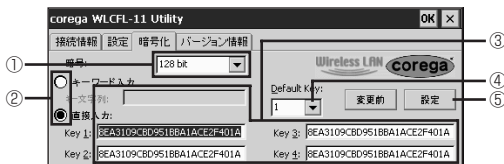
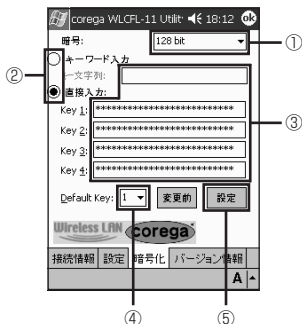
注意!
・WEP機能を使用する場合は、通信相手の機器がWEP機能を持っている必要があります。
・通信する無線LAN機器はすべて同じWEPを使用する必要があります。

本製品での暗号キーの設定方法は2とおりあります。
キーワード入力：任意の文字を入力すると、暗号キーを自動生成します。

・文字列は半角英数字で入力します。
・通信相手の機器と同じ文字列を入力します。
・通信相手の機器にもキーワード入力に対応している必要があります。
・暗号キーの生成方法は、機器よって異なります。うまくいかない場合は、直接入力を選択してください。
・Windows XPとそれ以外のバージョンのWindowsでは、暗号キー生成の仕組みが異なります。Windows XPとそれ以外のバージョンのWindowsを共存して使用する場合は、「キーワード入力」ではなく、「直接入力」で暗号キーを入力してください。

直接入力：26桁（128bit WEPの場合）または10桁（64bit WEPの場合）の16進数を入力します。

1 タスクトレイのをダブルタップします。
「corega WLCFL-11 Utility」が表示されます。

2 「暗号化」タブをタップし、以下のように設定します。
＜ハンドヘルドPCの場合＞

＜ポケットPCの場合＞

① 「Disabled（暗号化設定をしない）」「64bit」「128bit」の３種類から通信相手の機器と同じ暗号化の設定を選びます。
② 「キーワード入力」または「直接入力」を選びます。
③ 通信相手の機器と同じ暗号キーの設定をします。「キーワード入力」の場合は、入力欄に任意の文字列を入力します。「直接入力」の場合は、通信相手の機器と同じキー番号に16進数で暗号キーを入力します。
④ 「直接入力」の場合、手順②で選んだキー番号を選択します。
⑤ ［設定］をタップします。

3 「OK」をタップします。
WEPの設定は終了です。
通信内容を暗号化できるようになりました。

ソフトウェアをインストールする

●インストールする前の確認

本書ではご使用のパソコンのドライブ構成を次のように想定して説明しています。ドライブ名が異なる場合は、実際の環境に合わせて読み替えてください。

起動ドライブ（ハードディスク）	C ドライブ（C:）
CD-ROM ドライブ	E ドライブ（E:）

●ソフトウェアのインストール

本製品を使用するためのソフトウェア（ドライバー、ユーティリティー）を、パソコンにインストールする方法を説明します。基本的な操作は、Windows XP/2000/Me で共通です。差異のある操作等に関しては、該当の記載内容を参照してください。

注意!
・ソフトウェアのインストールは、パソコンに本製品を取り付けないで行ってください。
・Windows XP の場合は、「コンピューターの管理者」または同等の権限をもつユーザー名でログオンしてください。
・Windows 2000 の場合は、「Administrator」または Administrators グループのユーザー名でログオンしてください。

1 ユーティリティーディスクをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

2 Windows XPの場合は、[スタート]－「マイコンピュータ」の順にクリックします。
Windows XP以外は、デスクトップにある「マイコンピュータ」をダブルクリックします。

3 COREGA (D:)「CD-ROM」をダブルクリックします。

4 「WPC」フォルダをダブルクリックします。

5 「setup」をダブルクリックします。

6 「InstallShield Wizard」が起動するので、[次へ]をクリックします。

7 「インストール先の選択」が表示されます。
[次へ]をクリックします。

メモ インストール先のフォルダーを変更したい場合は、[参照]をクリックし、インストールするフォルダーを選択してください。通常は、変更する必要はありません。

8 「ファイルコピーの開始」が表示されます。
本製品用のデバイスドライバー、設定用ユーティリティー、初期設定値が表示されますので、確認して[次へ]をクリックします。
インストールが行われ、しばらくすると「InstallShield Wizardの完了」が表示されます。

9 ユーティリティーディスクをCD-ROMドライブから取り出し、[完了]をクリックします。

パソコンが再起動されます。
これでソフトウェアのインストールは完了です。

本製品をパソコンに取り付ける

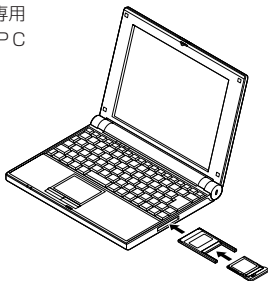
● 本製品を取り付けるときの注意

・本製品を取り付ける前に、必ずソフトウェアをインストールしてください。インストール方法は、「ソフトウェアをインストールする」（P.38）を参照してください。
・Windows XPの場合は、「コンピューターの管理者」または同等の権限をもつユーザー名でログオンする必要があります。
・本製品をパソコンに取り付ける場合は、必ず別売りのWLCFL-11専用コンパクトフラッシュアダプター（corega CF-ADP2）に本製品を装着してご使用ください。
・本製品の専用アダプター（corega CF-ADP2）以外のコンパクトフラッシュアダプターを使用すると、故障の原因になる恐れがあります。
・Windows 2000の場合は、「Administrator」またはAdministratorsグループのユーザー名でログオンする必要があります。
・PC カードスロットは、お使いのパソコンによって異なります。
・PCカードの取り付け方について詳しくは、ご使用のパソコンの取扱説明書をご覧ください。

● 本製品の取り付け手順

・Windows XP をご使用の場合は、「Windows XP の場合」（P.41）へ進みます。
・Windows 2000 をご使用の場合は、「Windows 2000 の場合」（P.42）へ進みます。
・Windows Me をご使用の場合は、「Windows Me の場合」（P.42）へ進みます。

■ Windows XP の場合

1 差し込む向きに注意して、本製品を専用アダプターに装着し、パソコンのＰＣカードスロットに取り付けます。

「新しいハードウェアの検出ウィザード」が起動します。

2 「ソフトウェアを自動的にインストールする」が選択されていることを確認し、[次へ]をクリックします。
Windowsとの互換性に関するメッセージが表示された場合は、[続行]をクリックします。

メモ　互換性については弊社において確認済みです。

インストールが終了すると「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」が表示されます。

3 [完了]をクリックします。
「新しいハードウェアの検出ウィザード」が終了します。
デスクトップ右下の通知領域にとが表示されます。

メモ　この時点でいくつか通知領域付近に吹き出しのメッセージが表示されますが、無視してかまいません。
（メッセージの例）
・新しいネットワークデバイスがインストールされました
・新しいハードウェアが見つかりました

4 [スタート]－「接続」－「すべての接続の表示」をクリックします。

5 「ワイヤレスネットワーク接続」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

6 「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」が表示されるので、「ワイヤレスネットワーク」タブを選択します。

7　「Windowsを使ってワイヤレスネットワークの設定を構成する」のチェックを外し、[OK]をクリックします。

8　右上の×をクリックし、「ワイヤレスネットワーク接続」を閉じて終了します。

9　パソコンを再起動させます。

次に「本製品が正しく動作しているか確認する」（P.43）で本製品が正しくインストールされているか確認してください。

■ Windows 2000 の場合

1　差し込む向きに注意して、本製品を専用アダプターに装着し、パソコンのPCカードスロットに取り付けます。

2　デジタル署名に関するメッセージが表示された場合は、[はい]をクリックします。
Windowsでの動作については弊社において確認済みです。

ドライバーのインストールが完了すると、デスクトップ右下のタスクトレイにが表示されます。

次に「本製品が正しく動作しているか確認する」（P.43）で本製品が正しくインストールされているか確認してください。

■ Windows Me の場合

1　差し込む向きに注意して、本製品を専用アダプターに装着し、パソコンのPCカードスロットに取り付けます。
ドライバーがインストールされる旨のメッセージが表示され、ドライバーがインストールされます。

ドライバーのインストールが完了すると、デスクトップ右下のタスクトレイにが表示されます。

次に「本製品が正しく動作しているか確認する」（P.43）で本製品が正しくインストールされているか確認してください。

本製品が正しく動作しているか確認する

本製品のインストールが正常に行われていることを確認します。

●「デバイスマネージャ」で確認する

1 [スタート]－「設定」－「コントロールパネル」(Windows XPの場合は、[スタート]－「コントロールパネル」)の順にクリックします。

2 「システム」アイコンをダブルクリックします(Windows XPの場合は、「パフォーマンスとメンテナンス」－「システム」の順にクリックします)。

3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします(Windows XP/2000の場合は、「ハードウェア」タブをクリックして表示される画面で[デバイスマネージャ]をクリックします)。

4 「ネットワークアダプタ」の左にある＋をクリックします。
インストールが正常に行われていれば、「ネットワークアダプタ」の下に「corega WLCFL-11」が表示されます。

4

デバイスのアイコンに「×」「?」「!」などのマークが付いている場合、またはアイコンが「ネットワークアダプタ」の下ではなく、「不明なデバイス」や「その他のデバイス」の下にある場合は、インストールに失敗しています。

● 無線アイコンの表示を確認する

インストール完了後、本製品が正常に認識されると、タスクバーにが表示されます。

工場出荷時は、通信モードが「Infrastructure」に設定されています。アクセスポイントとの接続状況によって表示される無線アイコンが以下のように変化します。

・アクセスポイントと通信されている場合 ：

・アクセスポイントと通信されていない場合 ：

次に無線LANの設定をします。
「PART5　パソコンの無線LAN設定をしよう」(P.46)へ進んでください。

本製品を取り外す

本製品をPCカードスロットから取り外す場合は、以下の手順で取り外してください。正しい手順で取り外さないと、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

注意!

・本製品を取り外す前に、ご使用のパソコンがネットワークに接続していないこと、また、他のパソコンからアクセスされていないことを確認してください。

・以下の操作を行うと、実際に本製品を取り外さなくてもデバイスの使用を停止したとみなされ、本製品は使用できなくなります。再度使用するときは、一度本製品を取り外してから再び取り付けてください。

1 Windows XP、2000、Meをご使用の場合は画面右下のタスクトレイのアイコンまたはをクリックし、「corega WLCFL-11を停止します」または「corega WLCFL-11を安全に取り外します」をクリックします。
安全に取り外せる旨のメッセージが表示されます。
Windows 2000、Meをご使用の場合はメッセージを確認後[OK]をクリックしてください。

2 本製品をパソコンのPCカードスロットから取り外します。

以上で取り外しの手順は終了です。
再度使用する場合は、そのままPCカードスロットに接続します。

本製品のソフトウェアをアンインストールする

本製品のソフトウェアをパソコンからアンインストールする場合は、以下の手順でソフトウェアを削除してください。

1 Windows XPの場合、[スタート]-「コントロールパネル」をクリックします。Windows XP以外の場合は、[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。

2 「コントロールパネル」で「アプリケーションの追加と削除」をクリックします。「アプリケーションの追加と削除」の画面が表示されます。

3 「corega WLCFL-11」を選び、[追加と削除]をクリックします。

4 「ファイル削除の確認」のメッセージが表示されたら[OK]をクリックします。

5 「InstalShield Wizardの完了」の画面が表示されたら、[完了]をクリックします。

6 「アプリケーションの追加と削除」から「corega WLCFL-11」が消えれば、アンインストール完了です。[×]をクリックして、「アプリケーションの追加と削除」を終了してください。

PART5　パソコンの無線LAN設定をしよう

パソコンのネットワーク設定を確認する

無線LANでデータをやりとりしたり、インターネットに接続したりするには、ネットワークの設定が必要です。

● インターネットに接続するとき

本製品を接続したパソコンでインターネットに接続するには、TCP/IPの設定が必要です。次の手順で設定を確認してください。

注意!
・この作業は、インターネットに接続するにはルーターなどの設定も必要です。各機器の取扱説明書を参照して、設定を行ってください。
・Windows XP ／ 2000 の場合は、「コンピュータの管理者」および「Administrator」または同等の権限を持つユーザー名でログインして行ってください。ユーザー権限については、Windowsの取扱説明書を参照してください。

・ Windows XP の場合

1　[スタート]－「コントロールパネル」をクリックします。

2　「コントロールパネル」にある「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。
「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックしてください。

3　「ネットワーク接続」アイコンをクリックします。

4　「ワイヤレスネットワーク接続」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。

5　「全般」タブで「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が有効になっているか確

認します。
①「接続方法」の欄に本製品の名称が表示されていることを確認してください。
②「インターネットプロトコル（TCP/IP）」の横にチェックマークが入っていることを確認してください。

6 「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、[プロパティ]をクリックします。

7 「全般」タブを選択し、次のようにIPアドレスの設定をします。
・ DHCPサーバー機能を持ったルーターなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。
・ DHCPサーバー機能を使用しない場合や、特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、「次のIPアドレスを使う」を選択して、使用するIPアドレスとサブネットマスクを入力してください。

8 [OK]をクリックします。

9 「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面で、[OK]をクリックします。

10 再起動を促すメッセージが表示された場合は、再起動します。
メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

・ Windows 2000 の場合

1 [スタート]－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。
※「ローカルエリア接続」の名称はご使用のパソコンの環境により異なる場合があります。

3 「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が有効になっていることを確認します。
①「接続方法」の欄に本製品の名称が表示されていることを確認してください。
②「インターネットプロトコル（TCP/IP）」の横にチェックマークが入っていることを確認してください。

4 「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、[プロパティ]をクリックします。

5 次のようにIPアドレスの設定をします。
- ・ DHCPサーバー機能を持ったルーターなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。
- ・ DHCPサーバー機能を使用しない場合や、特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、「次のIPアドレスを使う」を選択して、使用するIPアドレスとサブネットマスクを入力してください。

6 [OK]をクリックします。

7 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で[OK]をクリックします。

8 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メモ メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

・ Windows Me の場合

1 [スタート]－「設定」－「コントロールパネル」をクリックします。

メモ Windows Meの場合、よく使うコントロールパネルのオプションだけが表示されているときは、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックすると、「ネットワーク」アイコンが表示されます。

2 「コントロールパネル」にある「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

3 「ネットワークの設定」タブ内で「現在のネットワークコンポーネント」の欄に「TCP/IP －>corega WLCFL-11」が表示されていることを確認して選択したあと、[プロパティ]をクリックします。

メモ 認識されているネットワークアダプタが1台しかない場合は「インターネットプロトコル(TCP/IP)」、「TCP/IP」などと表示される場合もあります。

4 「IPアドレス」タブで、次のようにIPアドレスの設定をします。
- ・ DHCPサーバー機能を持ったルーターなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。
- ・ DHCPサーバー機能を使用しない場合や、特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、「次のIPアドレスを使う」を選択して、使用するIPアドレスとサブネットマスクを入力してください。

5 [OK]をクリックします。

6 「ネットワーク」画面の、[OK]をクリックします。

メモ WindowsのOS用ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合はドライブにWindowsのOS用ディスクを挿入し、メッセージにしたがって操作します。
再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

●他のパソコンとファイルやプリンターの共有をするとき

使用するネットワーク環境に応じて、次のような設定を行ってください。設定方法について詳しくは、Windowsの取扱説明書やヘルプを参照してください。企業などで利用する場合は、ネットワーク管理者に設定内容を確認してください。
・必要なサービスやプロトコルを追加、有効にする
・コンピューター名とワークグループ名を設定する
・フォルダーやプリンターの共有設定をする

これで無線 LAN を使って他のパソコンとファイルのやりとりをしたり、インターネットへ接続したりできるようになります。
次に「無線 LAN の設定をする」(P.50)に進んでください。

無線LANの設定をする

ユーティリティーを使用して本製品で無線通信するための設定を行います。設定が終わったら、通信できるかどうか確認します。

● ユーティリティーを表示する

メモ　設定を行うときは、通信相手の機器（アクセスポイントなど）の電波が届く場所に本製品を取り付けたパソコンを置いてください。通信相手の機器の電波が届かない場所で設定を行うと、通信相手の機器が正しく認識されないことがあります。

1　デスクトップ右下のタスクトレイにある無線アイコン　または　をダブルクリックします。
「corega WLCFL-11 Configuration Utility」が表示されます。

■通信相手の機器を自動で検索し、設定する

通信相手の機器を自動的に検索し、設定を行います。

1　通信相手の機器（アクセスポイントなど）を起動しておきます。

2　「AP検索」タブをクリックします。
しばらくすると、検索された通信相手の機器が表示されます。

注意!　・AP検索で表示された通信相手の機器のうち、WEPキーがかかっているものは、同じWEPキーを設定しないと、接続できません。

メモ　・接続したい通信相手の機器が表示されない場合は、[再検索]をクリックして検索しなおしてみてください。
・[再検索]をクリックしても接続したい通信相手の機器が表示されないときは、通信相手の機器側でESSIDを検出できないように設定されている可能性があります。通信相手の機器側の設定を確認してください。

3　接続できる通信相手機器が表示されたら、BSSID欄に表示された通信相手の機器名をダブルクリックします。

メモ　「通信状態」タブが表示され、接続状況が確認できます。
無線アイコンが通信相手の機器と接続された状態になります。

これで通信相手の機器と通信できるようになりました。

● 無線 LAN の設定を確認しよう

相手の無線LAN機器とファイルをやりとりできるか、またはインターネットに接続できる環境がある場合は、無線LANを使ってインターネットに接続できるか確認してください。

次に「接続状態を確認しよう」（P.54）に進んでください。

■通信相手の機器を自動で検索できない場合

通信相手の機器を自動で検索できない場合は、利用する通信モードに合わせて手動で設定を行います。

・インフラストラクチャーモードの場合は、「インフラストラクチャーモードの場合」（本ページ）に進みます。
・802.11 アドホックモードの場合は、「802.11 アドホックモードの場合」（P.52）に進みます。

● インフラストラクチャーモードの場合

アクセスポイントを使用して無線 LAN に接続するときは、次のように設定します。

1 アクセスポイントを起動しておきます。

2 「corega WLCFL-11 Configuration Utility」が表示されたら「設定」タブをクリックします。

3 ESSID欄に通信相手の機器と同じESSIDを入力します。

4 通信モード欄で「Infrastructure」を選択します。

5 [設定変更] をクリックすると設定が保存されます。

6 [OK] をクリックして終了します。

注意!
・「ESSID」欄には、接続したいアクセスポイントに設定されているESSIDと同じ文字列を入力する必要があります。
アクセスポイント側に設定されているESSID の調べ方については、アクセスポイントに添付の取扱説明書をご覧ください。
・ESSIDには、32文字以内の半角英数文字および記号を使用できます。使用できる記号は、次の通りです。

! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [￥] ^ _ { ¦ } ~

メモ 工場出荷時のESSID は「corega」に設定されています。

5

これで無線 LAN アクセスポイントを通じて、インターネット接続や他の機器とのデータ交換ができるようになりました。

● 802.11 アドホックモードの場合

802.11アドホックモード対応の無線LAN機器をご使用の場合に選択することができます。選択する前にお使いの無線 LAN 機器の対応状況をご確認ください。
802.11 アドホックモードでは、ESSID や認証チェックが行われます。

1 無線LANの設定が完了している機器を起動しておきます。

2 「corega WLCFL-11 Configuration Utility」が表示されたら「設定」タブをクリックして、表示される画面で次のように設定します。

3 ESSID欄に通信相手側機器と同じESSIDを入力します。

4 通信モード欄で「802.11 Ad Hoc」を選択します。

5 チャンネル欄で通信相手側機器と同じチャンネルにします。

6 [設定変更]をクリックすると設定が保存されます。

7 [OK]をクリックして終了します。

注意!
・「ESSID」欄には、通信相手側機器と同じESSIDを入力する必要があります。通信相手側機器に設定されているESSID の調べ方については、通信相手側機器に取り付けられている無線LANアダプターに添付の取扱説明書をご覧ください。
・ESSIDには、32文字以内の半角英数文字および記号を使用できます。使用できる記号は、次の通りです。

! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ~

メモ 工場出荷時には、ESSID は「corega」に設定されていますが、変更することをおすすめします。

これで無線 LAN 機能のあるパソコン同士で通信できるようになりました。

●無線 LAN の設定を確認しよう

相手の無線LAN機器とファイルをやりとりできるか、またはインターネットに接続できる環境がある場合は、無線LANを使ってインターネットに接続できるか確認してください。

次に「接続状態を確認しよう」（P.54）に進んでください。

5

接続状態を確認しよう

ユーティリティーを使って無線 LAN 通信の接続状態を確認します。

1 タスクバーに表示されているをダブルクリックします。

2 「corega WLCFL-11 Configuration Utility」が表示されたら、「通信状態」タブをクリックします。
現在の無線LAN通信の状態が表示されます。

メモ ・「802.11 Ad Hoc」モード時には、「電波状態」および「通信状態」は表示されません。

●通信状態が不安定な場合

通信状態が不安定な場合は、［再検索］をクリックしてください。

次に「セキュリティーの設定をしよう」（P.55）に進んでください。

セキュリティーの設定をしよう

無線LANではデータの通信に電波を利用しているため、電波が届く範囲であれば、通信内容を傍受されたり、不正侵入されたりする恐れがあります。本製品では、これらの対策として次のようなセキュリティー機能を用意しています。

■通信相手を識別する

●ESSID（Extended Service Set IDentifier）

無線LANに接続する機器を識別する名前です。SSIDと呼ばれることもあります。同じESSIDを持つ無線LAN機器同士でしか通信できないため、独自のESSIDを設定することにより、外部から不正侵入される危険が減少します。工場出荷時のESSIDは「corega」に設定されています。セキュリティーのためにESSIDを変更することをおすすめします。

●ESSIDの設定

・「ESSID」欄には、接続したいアクセスポイントに設定されているESSIDと同じ文字列を入力する必要があります。アクセスポイント側に設定されているESSIDの調べ方については、アクセスポイントに添付の取扱説明書をご覧ください。

・ESSIDには、32文字以内の半角英数文字および記号を使用できます。使用できる記号は、次の通りです。

! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ~

1 タスクトレイのアイコンをダブルクリックします。
「corega WLCFL-11 Configuration Utility」が表示されます。

2 「設定」タブをクリックします。

3 通信相手の機器と同じESSIDを入力します。

4 [設定変更する]をクリックします。

5 [OK]をクリックします。

■通信内容を暗号化する

● WEP（Wired Equivalent Privacy）

通信内容を暗号化すると、仮に通信データを傍受された場合でも、通信内容の復元を容易に行うことができなくなります。このWEP機能を有効にして通信データを暗号化することをお勧めします。
ただし、通信相手の機器もWEP機能を持っていないと使えません。

本製品は、「64Bit」と「128Bit」の2種類のWEPに対応しています。「128Bit WEP」の方がより安全です。また、定期的に暗号キーを変更することで、より安全性が高まります。
・「64Bit WEP」：16進数で10桁の暗号キーを利用可能
・「128Bit WEP」：16進数で26桁の暗号キーを利用可能

メモ
・16進数：0～9、a～fまでの英数字であらわします。
・「128Bit WEP」を使用する場合は、メモリの消費量が増加するため、無線ネットワークのパフォーマンスに多少影響があります。
・アクセスポイントを使って通信を行うときは、アクセスポイント側にもWEP暗号化の設定が必要になります。設定方法は、アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。
・通信する無線LAN機器はすべて同じWEPを使用する必要があります。

● WEP（Wired Equivalent Privacy）の設定

注意!
・WEP機能を使用する場合は、通信相手の機器がWEP機能を持っている必要があります。
・通信する無線LAN機器はすべて同じWEPを使用する必要があります。

本製品での暗号キーの設定方法には2とおりあります。
キーワード入力：任意の文字を入力すると、暗号キーを自動生成します。
・文字列は半角英数字で入力します。
・通信相手の機器と同じ文字列を入力します。
・通信相手の機器にもキーワード入力に対応している必要があります。
・暗号キーの生成方法は、機器よって異なります。うまくいかない場合は、直接入力を選択してください。
・Windows XPとそれ以外のバージョンのWindowsでは、暗号キー生成の仕組みが異なります。Windows XPとそれ以外のバージョンのWindowsを共存して使用する場合は、「キーワード入力」ではなく、「直接入力」で暗号キーを入力してください。

直接入力： 26 桁（128bit WEP の場合）または 10 桁（64bit WEP の場合）の
16 進数を入力します。

1 デスクトップ右下のタスクトレイのをダブルクリックします。
「corega WLCFL-11 Configuration Utility」が表示されます。

2 「暗号化」タブをクリックします。

3 「暗号」欄から「64Bit」または「128Bit」のどちらかを選択します。

メモ ・相手側機器と同じWEPに設定してください。
・より解読されにくい「128Bit」を選択することをおすすめします。

4 「キーワード入力」または「直接入力」を選択します。

5 通信相手の機器と同じ暗号キーの設定をします。「キーワード入力」の場合は、入力欄に任意の文字列を入力します。「直接入力」の場合は、通信相手の機器と同じキー番号に16 進数で暗号キーを入力します。

メモ ・通信相手の機器と同じ暗号キーを使ってください。異なった暗号キーでは通信できません。
・英数字は半角で入力してください。

6 「直接入力」の場合、手順5と同じ暗号キーの番号を選んでください。

7 [設定変更する]をクリックします。

8 [OK]をクリックします。

これで通信内容を暗号化できるようになりました。

PART6　ユーティリティーを見てみよう

ここでは、本製品の設定ユーティリティー「corega WLCFL-11 Utility」または「corega WLCFL-11 Configurasion Utility」について説明します。本製品の設定や接続状態の確認は、このユーティリティーを使って行うことができます。ユーティリティーでは、以下のことが行えます。

Windows CE マシンでのタブ名	パソコンでのタブ名	内容
接続情報		現在の無線通信の状態を確認することができます。
設定		本製品の無線接続の設定を行うことができます。
――――	AP 検索	利用可能なアクセスポイントの一覧を表示することができます。
暗号化		WEP機能による暗号化の設定を行うことができます。
バージョン情報		現在使用している本製品のソフトウェアのバージョンを確認することができます。

メモ　設定を行うときは、通信相手の機器との無線接続の状態が安定して行われる場所に、本製品を取り付けたWindows CEマシンやパソコンが置かれていることを確認してください。通信相手の機器の電波が届かない場所や無線接続の状態が不安定な場所では、通信相手の機器が正しく認識されない場合があります。

Windows CEマシンのユーティリティーを表示する

本製品をWindows CEマシンに取り付けてある状態で、Windows CEマシンの電源を入れると、ユーティリティーが自動的に起動し、常駐します。

●ユーティリティーを表示する

タスクトレイにあるまたはをダブルタップして、ユーティリティーを表示します。

●ユーティリティーの画面を消す

［OK］をタップすると、ユーティリティーの画面が消えます。画面は消えますが、ユーティリティーは終了していません。

●ユーティリティーを終了する

タスクトレイにあるまたはをタップして、表示されるポップアップメニューから「終了」をタップします。ユーティリティーを終了すると、タスクトレイのまたはが消えます。

●ユーティリティーを起動し、タスクトレイにまたはを表示させる

＜ハンドヘルドPCの場合＞
［スタート］－「プログラム」－「corega WLCFL-11 Utility」をタップしてください。

＜ポケットPCの場合＞
［スタート］－「プログラム」をタップし、プログラムの中から「corega WLCFL-11 Utility」をダブルタップしてください。

パソコンのユーティリティーを表示する

本製品をパソコンに取り付けてある状態で、パソコンの電源を入れると、ユーティリティーが自動的に起動し、常駐しています。ユーティリティーの画面を表示させるためには、次の手順で操作します。

●ユーティリティーを表示する

デスクトップ右下のタスクトレイにある またはをダブルクリックして、ユーティリティーを表示します。

●ユーティリティーの画面を消す

をクリックすると、ユーティリティーの画面が消えます。画面は消えますが、ユーティリティーは終了していません。

●ユーティリティーを終了する

デスクトップ右下のタスクトレイにある または を右クリックして、表示されるメニューから「終了」をクリックします。ユーティリティーを終了すると、タスクトレイの または が消えます。

●ユーティリティーを起動し、タスクトレイに または を表示させる

[スタート]－「すべてのプログラム」－「corega WLCFL-11」－「corega WLCFL-11 Configuration Utility」をクリックしてください。
Windows XP 以外では、[スタート] －「プログラム」－「corega WLCFL-11」－「corega WLCFL-11 Configuration Utility」をクリックしてください。

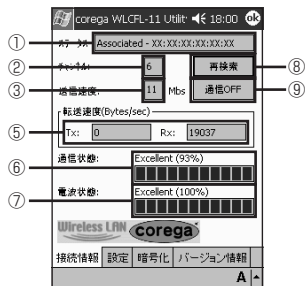
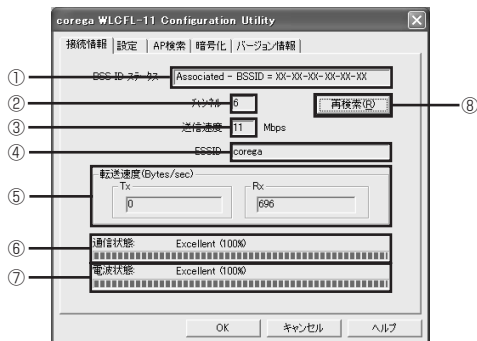
設定項目について

（メモ） 項目名が Windows CE マシンとパソコンで異なる場合は、パソコンの項目名は（　）内に表記しています。

■「接続情報」タブについて

「corega WLCFL-11 Utility」または「corega WLCFL-11 Configuration Utility」が表示されたら「接続情報」タブを選択します。

＜ハンドヘルド PC ＞

＜ポケット PC ＞

<パソコン>

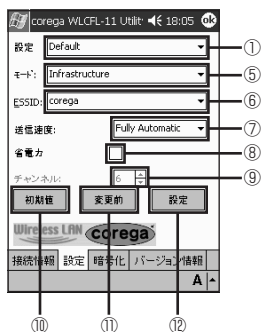
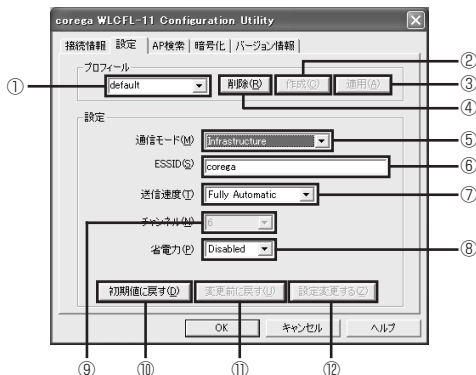
項目名	説明
①ステータス(BSSIDステータス)	通信相手の機器に設定されているBSSID（MACアドレス）が表示されます。
②チャンネル	通信相手の機器との間で設定されているチャンネルが表示されます。
③送信速度	通信相手の機器に設定されている通信速度が表示されます。
④ ESSID <パソコンのみ>	通信相手の機器で設定されているESSIDが表示されます。
⑤転送速度（送信速度）	現在、通信相手の機器との間で行われているデータの転送速度の情報が表示されます。
⑥通信状態	現在の通信状態をパーセンテージで表示します。
⑦電波状態	現在の電波状態をパーセンテージで表示します。
⑧再検索	接続可能な通信相手の機器を検索します。
⑨通信 OFF・通信 ON < Windows CE マシンのみ>	本製品の通信を「ON」「OFF」にできます。タップするたびに「ON」と「OFF」が切り替わります。

■「設定」タブについて

「corega WLCFL-11 Utility」または「corega WLCFL-11 Configuration Utility」が表示されたら「設定」タブを選択します。

<ハンドヘルドPC>

<ポケットPC>

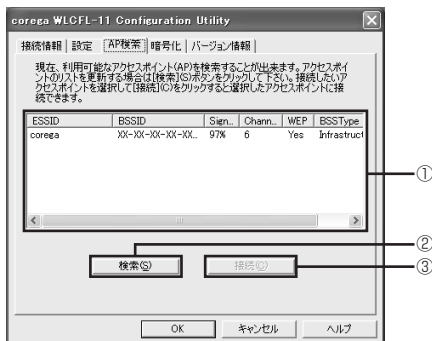
6

＜パソコン＞

項目名	説明
①設定（プロフィール）	ご利用の環境に合わせて複数の設定を使い分けたい場合など、それぞれの設定に名前を付けて登録しておくことができます。 **＜Windows CEマシン＞**「設定」欄に設定名を直接、入力します。入力した設定名は、タップすることによって表示されるメニューから選ぶことができます。 **＜パソコン＞**「プロフィール」欄のリストから「プロフィール」を選択して選ぶことができます。 工場出荷時のプロフィール名は、default、default1～4になっています。プロフィール名は変更できます。
②作成＜パソコンのみ＞	設定に名前を付けて保存することができます。
③適用＜パソコンのみ＞	「プロフィール」で選んだ設定を適用させることができます。
④削除＜パソコンのみ＞	「作成」で保存した設定とその名前を削除することができます。

項目名	説明
⑤モード（通信モード）	通信相手の機器に合わせて通信モードを「Infrastructure」「802.11 Ad Hoc」から選択します。
⑥ ESSID	通信相手の機器と同じ ESSID を選びます。
⑦送信速度	無線 LAN の通信速度を変更することができます。「1Mb」「2Mb」「Auto 1 or 2」「5.5Mb」「11Mb」「Fully Automatic」の中から選ぶことができます。工場出荷時の状態は、「Fully Automatic」に設定されています。通常は変更する必要はありません。
⑧省電力	無通信時に本製品への電力供給を抑えることができます。 ＜Windows CE＞□をタップして、☑にすることによって省電力モードにできます。 **＜パソコン＞**▼をクリックしてメニューを表示させ、「Disabled」（省電力モード OFF）または「Enabled」（省電力モードON）をクリックします。
⑨チャンネル	「802.11 Ad-Hoc」モード時、通信相手の機器と同じチャンネルに設定します。
⑩初期値（初期値に戻す）	工場出荷時の状態に戻すことができます。
⑪変更前（変更前に戻す）	「設定（設定変更）」をする前であれば、設定内容を変更する前の状態に戻すことができます。
⑫設定（設定変更する）	変更した設定を反映させて、保存することができます。

■「AP 検索」タブについて（パソコンの場合のみ）

「corega WLCFL-11 Configuration Utility」が表示されたら「AP 検索」タブを選択します。

メモ 「AP 検索」タブは、パソコンにのみ表示されます。Windows CE マシンでは、表示されません。

<パソコン>

項目名	説明
①通信可能な機器情報	本製品と接続可能な機器を表示します。 ESSID：通信可能な機器の ESSID が表示されます。 BSSID：通信可能な機器の BSSID（MAC アドレス）が表示されます。 Signal：通信可能な機器の電波状態が表示されます。 Channel：通信可能な機器のチャンネルが表示されます。 WEP：通信可能な機器の WEP の使用状態が表示されます。 BSSType：通信可能な機器との接続状態が表示されます。
②検索	通信可能な機器を検索します。
③接続	通信可能な機器の中から選択した機器と接続します。

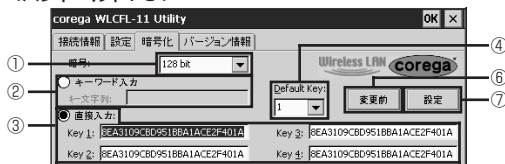
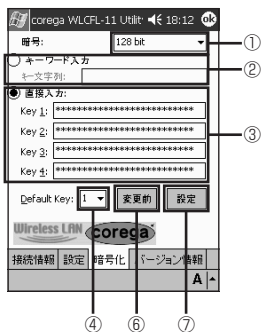
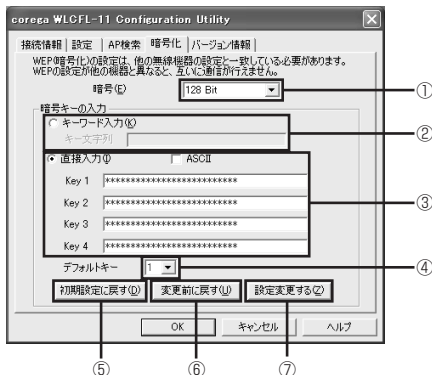
■「暗号化」タブについて

「corega WLCFL-11 Utility」または「corega WLCFL-11 Configuration Utility」が表示されたら「暗号化」タブを選択します。

メモ　暗号キーの設定について詳しくは、PART3の「セキュリティーの設定をしよう」（P.34）またはPART5の「セキュリティーの設定をしよう」（P.55）を参照してください。

＜ハンドヘルドPC＞

＜ポケットPC＞

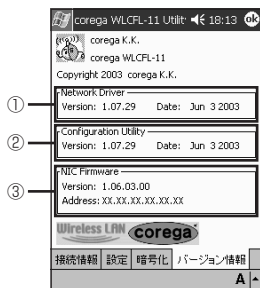
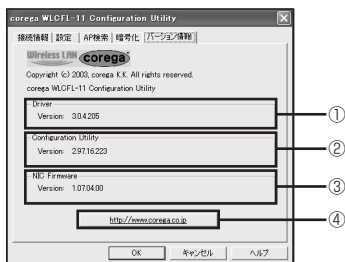
6

<パソコン>

項目名	説明
①暗号	暗号化の種類を「Disabled」「64bit」「128bit」から選べます。
②キーワード入力	半角英数字で128文字のキーワードを入力することにより、暗号化キーを自動生成します。通信相手の機器にもキーワード入力機能が必要です。
③直接入力	26桁または10桁の16進数の暗号化キーを入力します。
④Default Key(デフォルトキー)	通信相手の機器に合わせ、使用する暗号キーの番号を決めます。
⑤初期設定に戻す <パソコンのみ>	工場出荷時の状態に戻すことができます。
⑥変更前（変更前に戻す）	「設定（設定変更する）」をタップまたはクリックする前であれば、設定内容を変更する前の状態に戻すことができます。
⑦設定（設定変更する）	変更した設定を反映させて、保存することができます。

■「バージョン情報」タブについて

「corega WLCFL-11 Utility」または「corega WLCFL-11 Configuration Utility」が表示されたら「バージョン情報」タブを選択します。

＜ハンドヘルドPC＞

＜ポケットPC＞

＜パソコン＞

項目名	説明
①Network Driver(Driver)	現在のドライバーのバージョンを表示します。
② Configuration Utility	現在のユーティリティーのバージョンを表示します。
③ NIC Firmware	現在のファームウェアのバージョンを表示します。
④ホームページ ＜パソコンのみ＞	インターネットに接続できる環境であれば、WEBブラウザーを起動し、coregaのホームページにアクセスします。

製品仕様

製品名		corega WLCFL-11
無線部	サポート規格	（国際規格）IEEE 802.11、IEEE 802.11b （国内規格）ARIB STD-T66/RCR STD-33
	周波数帯域	2.4～2.497GHz
	チャンネル数	14 チャンネル
	伝送方式	直接拡散型スペクトラム拡散方式（DS-SS 方式）
	アクセス制御方式	CSMA/CA
	データ転送速度	11/5.5/2/1 Mbps 自動切り替え
	スクランブル処理	WEP（64/128bit）、ESSID
	アンテナ形式	内蔵セラミックアンテナ
	通信モード	Infrastructure/802.11 Ad Hoc
	ローミング	IEEE 802.11 準拠
PC インターフェース		コンパクトフラッシュ Type Ⅰ
電源部	動作電圧	DC 3.3V
	最大消費電流	320mA
環境条件	保管時温度	－20～60℃
	保管時湿度	95% 以下（結露なきこと）
	動作時温度	0～40 ℃
	動作時湿度	80% 以下（結露なきこと）
外形寸法（アンテナ部含む）		58(W)×42.8(D)×7.15(H)mm
質量		18g
取得承認		EMI 規格 VCCI クラス B 、技術基準適合認定

工場出荷時の設定

本製品は工場出荷時に以下の設定となっています。

通信モード	Infrastructure
ESSID	corega
チャンネル	6
送信速度 （転送速度）	Fully Automatic

MAC アドレスについて

本製品のMACアドレスは、本体裏面に記入されています。MACアドレスは本製品の内部に書き込まれているため、ユーザーが変更することはできません。
「PART1 まず準備が必要」「各部の名称と機能を覚えよう」（P.14）を参照して、MAC アドレスを確認してください。

トラブル解決のステップ

「故障かな？」と思ったら、修理を出す前に以下の方法で故障の確認をしてください。

①マニュアルを再確認する。管理者に確認する

本書以外にも通信相手の機器のマニュアル、Windows CEマシンやパソコンに添付のマニュアルをお手元にご用意ください。ネットワークにつながらない原因は複雑なため、本製品の設定が正しくても、他の機器の設定が間違っていたり、通信相手の機器の問題で正しく動作しないこともあります。

このほか・・・

- ·企業などでお使いの場合は、ネットワークの設定がオフィスによって決められていることがあります。ネットワーク管理部門などに確認してください。
- ·インターネットにつながらないときは、インターネットプロバイダーから送られてきた各種設定項目を確認して、設定してください。

↓

②コレガのホームページの情報を確認する

「よくあるお問い合わせ」におなじような事例がないか確認してください。

↓

③それでも解決しなければ、サポート窓口に問い合わせてみる

お問い合わせ先については、巻末を参照してください。

付録

おことわり

2003 年 6 月 Rev.A 初版

保証と修理について

■保証について

製品保証書裏面に記載されている「製品保証規定」を必ずお読みになり、本製品を正しくご使用ください。無条件で本製品を保証するということではありません。正しい使用方法で使用した場合のみ、保証の対象となります。また、物理的な破損等が見受けられる場合は、保証の対象外となりますので予めご了承ください。本製品の保証期間については、保証書に記載されている保証期間をご覧ください。

■修理について

故障と思われる現象が生じた場合は、まず取扱説明書を参照して、設定や接続が正しく行われているかを確認してください。現象が改善されない場合は、裏表紙に記載の必要事項をご記入の上、保証書および購入日の証明できるもののコピー（レシート等可）を添付し、弊社修理センター宛てに製品（付属品一式を含む）を送付ください。製品を送付する際は、以下の点にご注意ください。

・修理期間中の代替機等は弊社では用意しておりませんので、予めご了承ください。
・保証書に販売店の押印がない場合は、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。
・製品購入日の証明ができない場合、無償修理の対象となりませんのでご注意ください。
・弊社修理センターへ製品を送付する際の送付料金につきましては、お客様のご負担とさせていただきます。尚、運送中の故障や事故に関しては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
・宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付願います。普通郵便による送付は固くお断りいたします。
・修理期間は、製品到着後、約 10 日程度（弊社営業日数）を予定しております。

弊社ホームページのご案内

弊社ホームページでは、各種商品の最新の情報、最新ファームウェア、よくあるお問い合わせなどを提供しています。本製品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧いただくことをお勧めします。

http://www.corega.co.jp/

製品に関するご質問は・・・

製品のご質問はコレガサポートセンターまで必要事項をご記入してFAXまたは電話にてお問い合わせください。
お問い合わせの際には、下記の必要事項をご記入いただいた書面をFAXいただくか、電話にてお知らせください。

■お問い合わせ先

corega　サポートセンター
TEL.045-476-6268
FAX.045-476-6294

<受付時間>
10:00～12:00、13:00～18:00　月～金（祝・祭日を除く）

■修理品受付け先

〒222-0033　横浜市港北区新横浜1-19-20
corega　修理センター
（詳しくは、「保証と修理について」（このページの裏）を参照してください）

■お問い合わせ修理依頼に関する必要事項

あらかじめ下記の必要事項を控えておいてください。

・製品名
・シリアル番号（S/N）、リビジョンコード（Rev.）
・お名前、フリガナ
・連絡先電話番号、FAX番号
・購入店
・購入日付
・お問い合わせ内容（できる限り詳しくお知らせください）